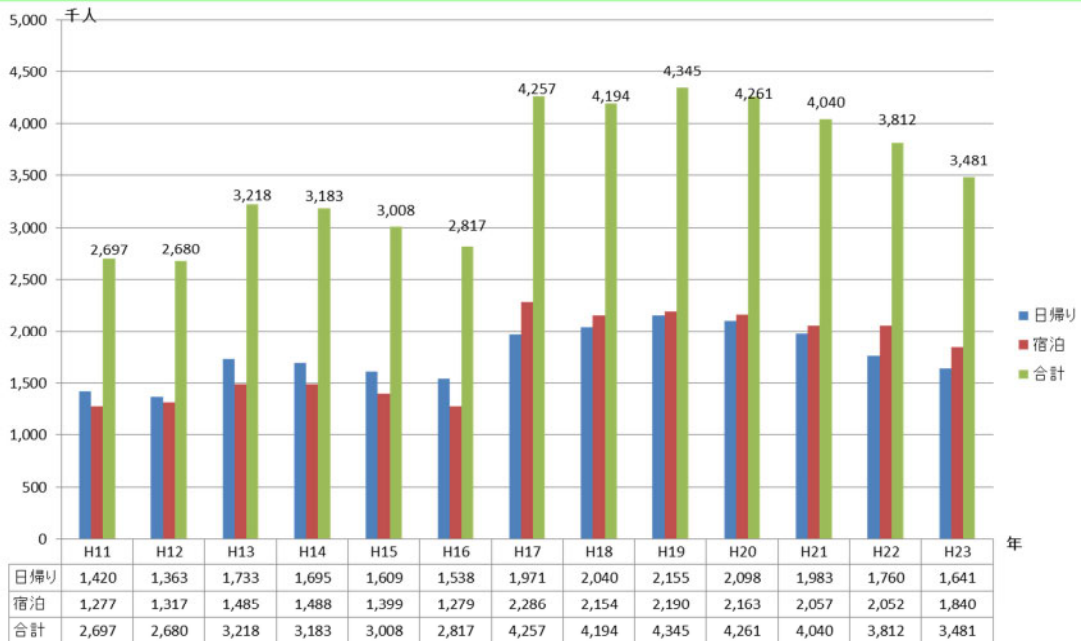




高山市の観光動向について

高山市観光課長
高原 透

観光客数の推移(日帰り・宿泊別)



1. 官民一体、広域連携の取り組み

【飛騨高山観光客誘致推進協議会】

趣 旨	官民一体となり、自然と歴史などを取り入れた個性豊かな観光事業を実施、飛騨高山を広く宣伝し、全国から観光客を誘致する。
設 立	昭和62年6月
構成団体	高山市、飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨地域地場産業振興センター、高山商工会議所、飛騨高山旅館ホテル協同組合
事 業	首都圏・関西圏及び全国キャンペーン（誘致説明会、招聘事業等）、宣伝ツール等の作成 誘客事業：タイムカプセルを通して江戸時代へ、飛騨高山雛まつり・端午の節句 四季の中橋等ライトアップ、冬期誘客事業 等
予 算	H23年度 25,300千円（市負担金18,900千円）

【飛騨高山教育旅行誘致推進協議会】（平成19年度から修学旅行⇒教育旅行に変更）

趣 旨	歴史と伝統が息づき、独特の文化と人と人との触れ合い、人情といった飛騨高山の持つよさを積極的に宣伝し、全国から修学旅行や教育旅行などを誘致する。 次世代対策として、全国の大学等への情報発信、訪問による誘客を行っている。
設 立	平成元年12月
構成団体	高山市、飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨高山旅館ホテル協同組合、飛騨高山民宿協同組合、飛騨高山文化施設協会、高山土産品組合、濃飛乗合自動車
事 業	インターネット情報発信、パンフレット等作成、学校訪問及び誘致活動、外国語DVD製作（毎年約7万人：総合学習、研修旅行、ゼミ等含む）
予 算	H23年度 1,777千円（市負担金900千円）

【飛騨高山映像祭実行委員会】

趣 旨	全国各地からビデオ作品を募集し、優秀作品を各種メディア等を通じて周知することにより、飛騨高山のイメージアップを図るとともに観光客誘致と地域文化の活性化を図る。
設 立	平成23年5月（前身：飛騨高山ビデオ映像祭 昭和63年10月）
構成団体	高山市観光連絡協議会、飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨地域地場産業振興センター、高山商工会議所、飛騨高山ホテル旅館協同組合、高山土産品組合、高山菓子組合、高山漬物組合、飛騨春慶連合協同組合、飛騨一位一刀彫協同組合、NHK岐阜放送局、高山市
事 業	学生など25歳以下の若者を対象に、あらゆる映像ソースから作品を募集し、“心のふるさと飛騨高山”を審査により決定した優秀作品を各種イベント事業やメディアを通じて発信する。また、講師等を招き、ワークショップを開催し、動機づけ、スキルアップを狙う。「飛騨高山」部門と「心の絆」部門があり、飛騨高山大賞50万円ほか賞金及び副賞が授与される。
予 算	H23年度 11,676千円（市補助金10,000千円）

【飛騨高山観光大学実行委員会】

趣 旨	観光産業の振興及び観光による地域経済の活性化を図るために開催し、全国に受講生を募集している。
設 立	平成8年7月
構成団体	高山市、飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨地域地場産業振興センター、高山商工会議所、飛騨高山ホテル旅館協同組合、飛騨高山民宿協同組合、高山土産品組合、高山飲食業組合
事 業	昭和59年から講演会、分科会、市内視察等実施。約200人が受講
予 算	H23年度 2,585千円（市負担金1,400千円）

【高山祭協賛会】

趣 旨	国の重要有形及び無形民俗文化財である高山祭の行事と祭屋台の保存に関し協賛。また、観光客受入れに対する協力と高山祭の啓発宣伝
設 立	昭和50年4月
構成団体	高山市、飛騨高山文化施設協会、飛騨・高山観光コンベンション協会、高山商工会議所、飛騨高山ホテル旅館協同組合、飛騨高山民宿協同組合、高山土産品組合、高山菓子組合、高山漬物組合、飛騨春慶連合協同組合、飛騨一位一刀彫協同組合、飛騨酒造組合、飛騨木工連合協同組合、高山タクシー協会、高山料理業組合、高山社交組合、高山美術商組合、岐阜県石油業組合、（企業協賛：日立製作所中部支社）
事 業	リーフレット作成、幟旗設置、信号機調整、観光案内、雑踏整理
予 算	H23年度 7,506千円（市補助金2,000千円）会費105千円

【飛騨高山国際誘客協議会】

趣 旨	官民一体となってアジア諸国など世界各国から観光客を積極的に誘致し、観光・産業・経済の活性化を図る。
設 立	平成12年に「高台誘客推進協議会」を設立 平成15年に「飛騨高山国際誘客協議会」に改編 平成23年度から、海外戦略室へ事務局移管
構成団体	飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨高山観光客誘致推進協議会、主要ホテルほか観光関連団体
事 業	海外プロモーション、海外エージェント招聘及び受け入れ、VJC等関連事業
予 算	H23年度 16,215千円（市負担金9,000千円）会費1010万円

【ぶり街道推進協議会】

趣 旨	安房トンネルの開通を機に広域観光の推進、物産の振興並びに観光基幹道路の整備などの諸事業や観光に関わるその地域独自の文化・伝統の掘り起こしと活性化を図る。
設 立	平成11年9月設立
構成団体	高山市、飛騨市、富山市、松本市、4市の商工会議所・商工会・観光協会、国土交通省の国道事務所
事 業	観光と物産の宣伝販売事業、ぶり街道の歴史と文化の掘り起こしと発信、圏内の道路整備
予 算	H23年度 1,263千円（市負担金 市170千円、経済観光団体30千円）

【飛騨地域観光協議会】

趣 旨	市町村合併に伴い、「飛騨広域観光推進協議会」と「飛騨・高山国際観光モデル地区整備推進協議会」を統合し、多様化する観光客のニーズに対応した、広域的かつ弾力的な事業実施を目的としている。
設 立	平成17年3月
構成団体	高山市、飛騨市、下呂市、白川村
事 業	飛騨地域のパンフレット等作成、海外キャンペーン
予 算	H23年度 6,620千円（市町村割20%、人口割20%、観光客入り込み割60%） （負担金：高山市2,900千円、飛騨市914円、下呂市1,425千円、白川村361千円）

【松本・高山・金沢・白川郷誘客協議会】

趣 旨	外国人観光客の誘致を図るための国際観光地区の整備と国際観光の振興を図る。
設 立	平成元年4月「松本・高山・金沢国際観光ルート整備推進協議会」設立。 平成21年4月に白川郷が加わり「松本・高山・金沢・白川郷誘客協議会」となる。
構成団体	高山市、松本市、金沢市、白川郷
事 業	海外プロモーション、海外メディア・エージェンツ招聘等
予 算	H23年度 3,100千円（負担金：各市1,000千円 村100千円）

【越中・飛騨観光圏協議会】

趣 旨	富山県と岐阜県の両県にまたがる県境を越えた観光圏を整備することで、新たな観光ルートを形成し、国内外からの観光客の来訪や滞在（2泊3日以上）を促進する。
設 立	平成22年3月
構成団体	高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市、高山市、飛騨市、白川村ほか各自治体の観光協会及び商工会議所など
事 業	観光客の宿泊サービス向上、観光資源の活用、観光客の移動向上、情報提供の強化など
予 算	H23年度 15,859千円（負担金：市1,145千円）

誘客宣伝事業の取り組み

- ・テレビ・ラジオ、新聞・雑誌等の取材対応、掲載依頼及び表敬訪問
- ・ポスター、パンフレット、DVD、特製ミニさるぼぼ、うちわ、タオル等の宣伝ツールの作成
- ・旅行エージェンツへの商品造成依頼（北海道、東北、首都圏、中京圏、関西圏、九州）
- ・旅フェア、物産展等の催事に観光ブース出展・イベントを催行
- ・新たな観光客層獲得のための誘致事業（大学との協同事業）
- ・記念事業の実施（合併記念、市制施行75周年・・・）
- ・外国人観光客誘致のための海外プロモーション事業



2. 観光関係予算(平成23年度)

・ 観光振興費	〈入湯税充当 174,700千円〉	411,956千円
・ 宣伝費、協議会等負担金、地域振興費など		
・ 国際観光都市推進費	〈入湯税充当 15,600千円〉	68,529千円
・ 宣伝費、協議会等負担金など	【海外戦略室】	
・ 観光施設費	〈入湯税充当 13,970千円〉	269,339千円
・ 観光案内所管理運営費、指定管理料など		
・ 自然公園費		74,011千円
・ 乗鞍山麓五色ヶの森管理運営費等	【地域政策課】	
一般会計 合計	〈入湯税充当 204,270千円〉	823,835千円
	* 入湯税の100%	
特別会計 合計		
・ スキー場事業、駐車場等観光施設事業		106,900千円
・ ※別紙(H23観光関連予算概要)参照		

3. 国際化への取組み

I 海外都市との姉妹・友好都市提携

アメリカ・コロラド州デンバー市 [昭和35年7月29日都市提携]
中国・雲南省麗江市 [平成14年3月21日都市提携]

II 「国際観光都市」宣言

昭和61年3月に国際観光モデル地区に指定され、4月に「国際観光都市」を宣言(市制施行50周年)

III 飛騨高山国際協会の設立

昭和62年、飛騨高山国際協会を設立

IV 国際会議観光都市の指定

平成11年5月、飛騨・高山コンベンションビューローを設立
平成11年7月、国際会議観光都市に指定

受け入れ体制の整備

① ビジット・ジャパン案内所(旧「i」案内所の設置)

JR高山駅前に設置してある「飛騨高山観光案内所」が昭和62年11月に「i」案内所に指定され、外国人観光客の案内にあたっています。(英語案内、インターネット無料利用)また、平成20年度から上三之町地内に観光案内所を設置し観光案内業務を行っている。(英語案内)

案内所年間利用者件数 () は外国人観光客への案内
H19年 332,549件 (13,092件)
H20年 371,933件 (15,787件)
H21年 303,472件 (15,176件)
H22年 274,036件 (17,155件)
H23年 242,316件 (9,334件)



支柱型

② 誘導案内(多言語併記)の整備

外国人が安心して一人歩きできる環境づくりを目指し、多言語併記の誘導案内板の整備を行っています。

- ・支柱型 40ヶ所
- ・路面埋込型 65ヶ所(260枚)



路面埋込型

③ 外国人観光客等の受入マニュアル作成

「もてなしの匠 心得帳」を作成して、市内の宿泊・飲食関係事業者等に配布し、研修を実施。



④ 外国語パンフレット等作成

JNTO(日本政府観光局)を通じ、海外の都市に配布するパンフレットとして、英語、韓国語、中国語(繁体字、簡体字)、フランス語、タイ語の6種類を作成、配布している。また、飛騨高山の魅力を紹介したDVD(英語、韓国語、中国語(繁体字、簡体字)、フランス語、台湾用)のほか、各種体験メニューを紹介した韓国語、中国語(繁体字)のDVDも作成している。



⑤ 散策マップ作成

飛騨高山を訪問していただいたお客様に配布する散策マップを日本語、英語、中国語(簡体字、繁体字)、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、韓国語、タイ語の10言語で作成している。



⑥ 飛騨高山国際化おもてなし補助金

民間事業者の方等が、外国人を受け入れるために自主的、主体的に実施する取り組みに対して補助金を交付。

- ・ 対象経費の3分の2以内の額とし、千円未満の端数は切り捨て。
- ・ 一事業当たり20万円を限度とする。
- ・ 同一補助対象者への補助金交付は、同一年度内、1回に限る。

⑦ 高山市コンベンション開催支援事業

平成11年に「飛騨・高山コンベンションビューロー」が設立(高山商工会議所内)され、平成12年から国際会議等に「高山市コンベンション開催支援補助金」を交付している。

■国際大会:その参加者が50人以上であるもの(補助限度額:200万円)

国内参加者1人に対し1,000円(国外参加者は10,000円)

■国内大会:その参加者が50人以上であるもの(補助限度額:100万円)

国内参加者1人に対し1,000円

⑧ 招聘・受け入れ事業

旅行エージェントや雑誌記者などの視察や取材を積極的に受け入れ、飛騨高山のすぐれた観光資源を広く諸外国に紹介すると共に、ニーズの把握を行っている。

海外からの視察、取材対応件数

H18年度	38団体	512人
H19年度	43団体	381人
H20年度	38団体	304人
H21年度	28団体	238人
H22年度	36団体	461人

⑨ 海外へのPR活動

JNTO(日本政府観光局)の海外事務所にて外国語パンフレット設置



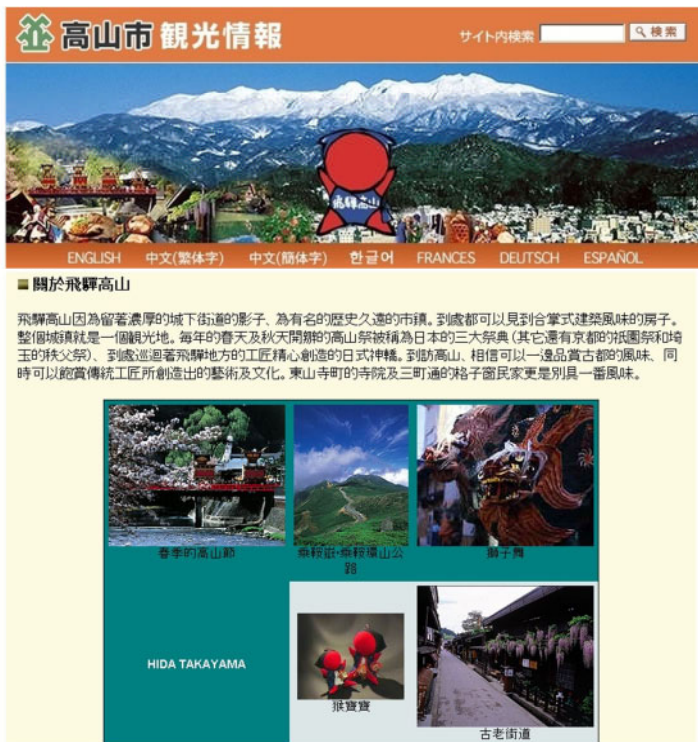
配布場所

ソウル、北京、上海、香港、バンコク、シンガポール、シドニー、ロンドン、フランクフルト、パリ、ニューヨーク、ロサンゼルス、トロント、台湾(日本観光協会)
計 14都市

海外で開催される旅行博覧会に参加

ジャパンフェスティバル(イギリス)	: 1985年(屋台からくり披露)
世界旅行見本市(イギリス)	: 1998年(屋台からくり披露)
ジャパンフェスティバル(フランス)	: 1990年(屋台からくり披露)
ジャパンエキスポ(フランス)	: 2008年
まつりinハワイ	: 1998年、2003年、2004年(郷土芸能披露)
ホノルルフェスティバル	: 2000年(郷土芸能披露)
海外旅行博覧会(OTF)台湾	: 1998年
台北国際旅展(ITF)	: 1997年、1999年~毎年
韓国国際観光展示会(KOTFA)	: 2001年~毎年
中国国際旅交交易会(CITM)	: 2002年~毎年(上海、昆明)
中国でのジャパンエキスポ	: 2003年~毎年(VJC事業)

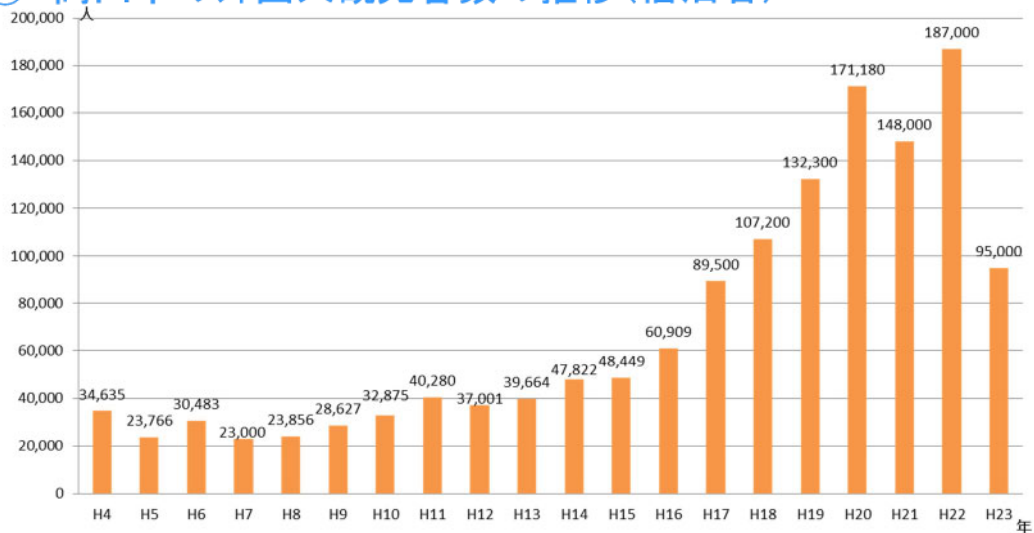
⑩ 観光ホームページの多言語化



平成8年からホームページを開設し、現在12言語に対応。

- 日本語
- 英語
- 中国語(簡体・繁体)
- 韓国語
- ドイツ語
- フランス語
- スペイン語
- イタリア語
- ポルトガル語
- ロシア語
- タイ語

⑪ 高山市の外国人観光客数の推移(宿泊者)

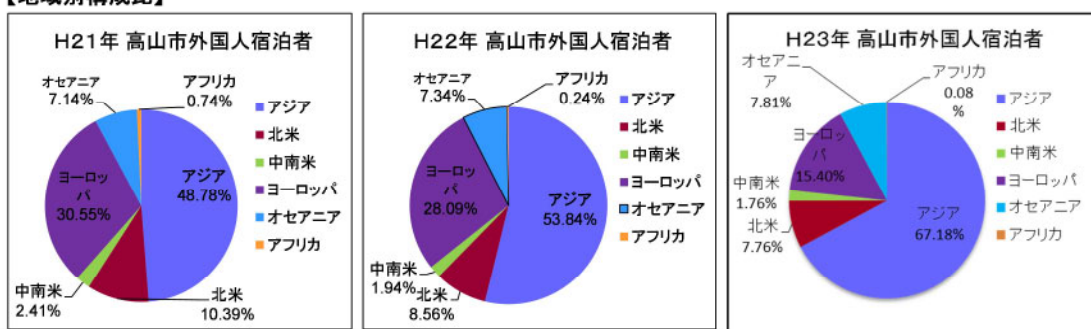


高山市を訪れる外国人観光客は、海外での誘客宣伝事業等の効果があり年々増加傾向にある。平成18年には10万人を超え、特にアジア地域からの外国人観光客が増加している。平成22年(2010年)にはアジアを中心に復調し、過去最高数値を記録したものの、平成23年(2011年)は東日本大震災の影響により半減した。
 <平成17年以降は合併後の数値>

⑫ 高山市の外国人観光客数(宿泊者)

	H21			H22			H23		
	総数(人)	前年比	構成率	総数(人)	前年比	構成率	総数(人)	前年比	構成率
アジア	72,190	70.91%	48.78%	100,690	139.48%	53.84%	63,825	63.39%	67.18%
北米	15,380	83.19%	10.39%	16,000	104.03%	8.56%	7,370	46.06%	7.76%
中南米	3,560	139.39%	2.41%	3,620	101.69%	1.94%	1,675	46.27%	1.76%
ヨーロッパ	45,220	120.78%	30.55%	52,520	116.14%	28.09%	14,630	27.86%	15.40%
オセアニア	10,560	97.41%	7.14%	13,730	130.02%	7.34%	7,420	54.04%	7.81%
アフリカ	1,090	2369.57%	0.74%	440	40.37%	0.24%	80	18.18%	0.08%
計	148,000	86.46%		187,000	126.35%		95,000	50.80%	

【地域別構成比】



2007年4月、ミシュラン初の日本に関する実用旅行ガイドである

「MICHELIN Voyager Pratique Japon (ミシュラン・ボワイヤジエ・プラティック・ジャポン)」において、「必ず訪れるべき観光地」として以下8カ所の都市、名所が3つ星の最高評価を獲得。

- 飛騨高山 ……「山懐に抱かれ保存された町」
- その他 日光・東京・富士山・奈良・京都・姫路城・厳島



2009年3月、その国の文化に評価の重点を置き、格式も高いとされる「MICHELIN LE Guide Vert Japon (ミシュラン・レ・グッド・ヴェール・ジャポン)」において、「わざわざ旅行する価値がある」観光地として、国内17カ所が最高評価の3つ星を獲得。

- 飛騨高山 ……特に「旅行のやすさと利便性」「旅行者の受け入れ姿勢の質」で高評価を受ける。
- その他 伊勢神宮・屋久島・新宿御苑・白川郷など



最近のフランス語版訪日旅行ガイドブックの発行

- ・ロンリープラネット 2006.2
- ・オーディオガイド ポケットヴォックス 2008.4
- ・ルタール 2008.5
- ・アシェット社 ブルーガイド 2008.10

4. 体験型観光の推進

(自然)

バードウォッチング、星空観測、山菜取り、きのこ採り、源流探検、自然散策

(川、雪遊び)

魚つかみ、スキー・スノーボード、かまくらづくり

(農林業)

高冷地野菜収穫、田植え、稲刈り、りんご狩り、間伐・下刈

(工芸)

藍染め、春慶塗絵付け、陶芸、一位細工、まゆクラフト

(味)

塩せんべい焼き、そば打ち、豆腐づくり、ソーセージづくり

(民芸)

わら細工、草木染め、さるぼぼづくり、わらぞうりづくり

(その他)

介護体験、障がい者との交流、座禅など



■ 飛騨高山の新しい楽しみ方

「農山村体験」(グリーンツーリズム)

豊かな自然や山村の生活・伝統文化という地域資源を活かした、『飛騨高山ならではのグリーンツーリズム(農山村体験型観光)』

普通の観光では味わえない楽しみ方がいろいろ！

1. 田舎満喫・スローライフ

・ゆったりした流れの中で、故郷へ帰ったような気分

2. 地元の方との交流

・農家民宿のご主人との団らんや語り、地元の方との出会い

3. 五感で感じる自然

・風の音、森の香り、土の感触など新鮮な体験の数々

4. 思い出が記憶と形に

・その季節にしかできない体験や、オリジナルの手作り体験など



5. 景観への取り組み

(文化財課事業)



三町伝統的建造物群保存地区
(約4.4ヘクタール) 昭和52年指定



下二之町大新町伝統的建造物群保存地区
(約6.6ヘクタール) 平成16年指定

○景観計画の策定 (都市整備課事業)

これまでの取り組み

- ◆昭和47年 市街地景観保存条例の制定
- ◆昭和54年 三町伝統的建造物群保存地区の選定
- ◆平成13年 潤いのあるまちづくり条例の制定
- ◆平成16年 下二之町大新町伝統的建造物群保存地区の選定
- ◆平成18年 景観行政団体 景観計画の策定
- ◆平成19年 屋外広告物条例の制定



下二之町大新町伝統的建造物群保存地区

景観形成の目標

- ◆自然や歴史・文化の保全と継承
- ◆格調高い都市景観の創出
- ◆個性あるまちづくりの推進

○高山市ポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例 (生活環境課事業)

- ◆平成20年4月1日から施行
- ①ごみのポイ捨て、飼い犬等のふんの放置(区域＝高山市全域)
- ②路上喫煙(区域＝路上喫煙禁止区域) ※平成21年4月から罰則(過料1,000円)追加



周辺の景観(古い町並)に配慮して落ち着いた色彩の看板に変更したコンビニ

6. バリアフリーの取組み

基本理念＝住みよいまちは、行きよいまち

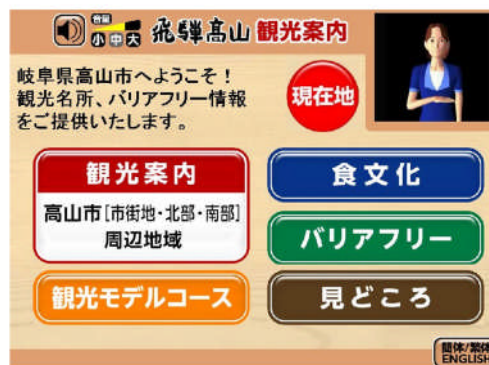
平成8年から、モニターツアーを実施し、障がいのある方や外国人からの生の声を聞き、行政に取り入れてきた。

高齢者、障がいのある方など全ての市民が暮らしやすいまち

訪れる人にとっても、すごしやすいまち

安全・安心・快適なバリアフリーのまちづくり

○公共施設のバリアフリー化



バリアフリー観光情報端末(飛騨高山観光案内所)

- ・音声ガイド・手話アニメーションによる観光案内
- ・飛騨高山観光案内所など市内10ヶ所に設置
- ・飛騨高山観光案内所や高山市役所などには観光客のために無料でインターネットが使えるようPCを設置



歩車道段差解消

多目的型公衆トイレ



オストメイト対応型
公衆トイレ



○民間施設のバリアフリー化



タクシー サポートシート



ホテル大浴場



ユニバーサルルーム

コントラストルーム



バスセンター スロープ

高山市 観光客数と主な出来事

年	観光客数:人	主な出来事(◆印国際観光関連)
昭和9年		高山本線全線開通
昭和11年		高山市誕生(高山町と大名田町合併)
昭和12年		高山駅に北アルプス登山案内所開設
昭和13年		府県道松本船津線安房峠開通
昭和23年		乗鞍山頂へ観光用登山バス開通(観光客約20万~30万人)
昭和30年		高山祭がNHKで全国に初放映
昭和35年		◆アメリカコロラド州デンバー市と姉妹都市提携
昭和38年		「暮らしの手帖」で花森安治氏が「山の向こうのきれいな町」と紹介
昭和39年		子ども会の手で宮川へ鯉を放流 中部山岳高原ルートに国より選定される
昭和41年	192,000	上三之町町並保存会結成 国鉄の周遊地に指定される
昭和42年	266,000	
昭和43年	380,000	観光映画「飛驒の高山」が全日本観光映画コンクール16ミリ部門最優秀賞を受賞
昭和44年	520,000	

年	観光客数:人	主な出来事(◆印国際観光関連)
昭和45年	660,000	国鉄キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」により「心のふるさと飛驒高山」として全国的に注目を浴びる
昭和46年	1,043,000	観光客数 100万人突破 長野県松本市と姉妹都市提携
昭和47年	1,335,000	
昭和48年	1,626,000	乗鞍スカイライン開通 第一次石油ショック
昭和49年	1,959,000	
昭和50年	1,930,000	酒蔵を見る冬の旅を実施
昭和51年	2,052,000	観光客数 200万人突破
昭和52年	1,987,000	
昭和53年	1,979,000	
昭和54年	1,934,000	第二次石油ショック
昭和55年	2,029,000	国鉄キャンペーン「出逢いさまざま飛驒・美濃路」
昭和56年	1,712,000	国鉄キャンペーン「出逢いさまざま飛驒・美濃路」パートⅡ 56豪雪

年	観光客数:人	主な出来事(◆印国際観光関連)
昭和57年	1,856,000	社団法人飛騨高山観光協会発足(高山観光協会から法人化) 神奈川県平塚市及び福井県武生市(現 越前市)と友好都市提携
昭和58年	1,859,000	
昭和59年	1,970,000	高山本線全通・高山駅開業50周年
昭和60年	1,868,000	沖縄地区誘客キャンペーンを実施 修学旅行誘致に伴う学校訪問 ◆英語版観光パンフレット作製(JNTO)
昭和61年	2,308,000	◆国際観光都市宣言 ◆国際観光モデル地区に指定 ◆観光案内誘導看板整備(英文併記) 高山市制50周年・金森公領国400年記念イベント
昭和62年	2,122,000	◆飛騨観光案内所(JR高山駅前)「i」案内所に指定
昭和63年	2,416,000	‘88年飛騨・高山 食と緑の博覧会開催 国鉄分割民営化 山形県上山市と友好都市提携
平成元年	2,188,000	首都圏キャンペーン開始

年	観光客数:人 (うち外国人)	主な出来事(◆印国際観光関連)
平成2年	2,518,000	特急ワイドビューひだ(改正前:特急ひだ 約2時間短縮) 高山-名古屋間8往復(3/10) ◆五ヶ国語会話集作製(英、仏、独、韓、中)
平成3年	2,488,000	
平成4年	2,464,000	天領300年
平成5年	2,080,000 (23,766)	
平成6年	2,305,000 (30,483)	高山本線全通・高山駅開業60周年記念SL運行
平成7年	2,285,000 (23,000)	味フェスタ'95 飛騨高山観光客誘致促進東京事務所開設
平成8年	2,302,000 (23,856)	高山市制施行60周年 関西キャンペーン開始 旅フェアに出展開始 ◆インターネットによる観光情報発信開始(日本、英) バリアフリーモニターツアー開始
平成9年	2,201,000 (28,267)	北アルプス横断中部縦貫自動車道安房峠道路(安房トンネル)共用開始(12/6)
平成10年	2,932,000 (32,875)	東海北陸自動車道と名神高速道路一宮JCT接続(12/13) シュトライナー運行開始 高山-新宿間6往復(3/20) 第6回地域伝統芸能全国フェスティバル開催 飛騨高山温泉利用組合設立 ◆外客来訪促進地域に指定ウエルカムマップ(英語)作製 ◆中国語(繁体字)版観光パンフレット作製(JNTO)

年	観光客数:人 (うち外国人)	主な出来事(◆印国際観光関連)
平成11年	2,697,000 (40,280)	特急ワイドビューひだ高山-名古屋間10往復(12/4) 特急ワイドビューひだ(改正前:急行たかやま 45分短縮)高山-大阪間1往復(12/4) 東海北陸自動車道荘川インターチェンジ共用開始(11/27) ◆飛騨・高山コンベンションビュロー設立 ◆国際会議都市に指定
平成12年	2,680,000 (37,001)	東海北陸自動車道飛騨清見インターチェンジ共用開始(10/7) ウエストライナー運行開始 高山-京都-大阪間2往復(3/18) メイヒライナー運行開始 高山-名古屋間6往復(10/8) ノースライナー運行開始 高山-白川郷-金沢間2往復(10/8)
平成13年	3,218,000 (39,664)	飛騨・高山ふれあい21事業(観光客300万人突破) ウエストライナー 大阪JR天王寺駅からユニバーサルジャパンへ延長 北海道・東北・九州地区誘致キャンペーン開始 NHKBS2が募集した21世紀に残したい日本の風景で全国第4位に選ばれる ◆中国語(簡体字)版観光パンフレット作製(JNTO)
平成14年	3,183,000 (47,822)	飛騨・高山ふれあい21パートII事業 飛騨高山を舞台にNHK連続テレビ小説「さくら」放映 全国和牛共進会開催 東海北陸自動車道白川郷インターチェンジ共用開始(11/16) メイヒライナー増便 高山-名古屋間9往復 ◆中国雲南省麗江市と友好都市提携 ◆観光ホームページに中国語(繁体字)と韓国語を追加

年	観光客数:人 (うち外国人)	主な出来事(◆印国際観光関連)
平成15年	3,008,000 (48,449)	飛騨・高山ふれあい21パートIII事業 乗鞍スカイラインで環境保護のためマイカー規制開始 ◆観光ホームページに中国語(簡体字)を追加
平成16年	2,817,000 (60,909)	高山本線全通・高山駅開業70周年 中部縦貫自動車道高山西インターチェンジ共用開始(11/27) 第1回優秀観光地づくり賞金賞・国土交通大臣賞受賞 ◆観光ホームページにドイツ語、フランス語、イタリア語を追加
平成17年	4,257,000 (89,500)	新・高山市誕生(2/1に丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、国府町、上宝村の周辺9町村と合併) 中部国際空港(セントレア)開港(2/17) 愛・地球博開催(3/25~9/25) 東海環状自動車道美濃関JCT~豊田東JCT共用開始(3/19) 合併記念事業の実施(NHK道中での公開録画、春の高山祭屋台特別曳き揃え、雲南省雑技団招聘ほか)
平成18年	4,194,000 (107,200)	高山市制施行70周年記念事業の実施(観光紹介DVD作成(5ヶ国語)) 秋の高山祭屋台特別曳き揃え (NHKBS日本のうた公開録画)
平成19年	4,345,000 (132,300)	中部縦貫自動車道高山インターチェンジ共用開始 JR6社による岐阜県デスティネーションキャンペーン(10~12月) ◆外国語版ぶらり散策マップ作成(英語、中国語簡体字、中国語繁体字、フランス語、イタリア語) ◆ミシュラン・オレンジブックにて三つ星獲得
平成20年	4,261,000 (171,180)	東海北陸自動車道全線開通(飛騨清見IC~白川郷IC)7/5 ◆フランス版観光パンフレット作製(JNTO) ◆外国語版ぶらり散策マップ作成(スペイン語、ドイツ語)

年	観光客数:人 (うち外国人)	主な出来事(◆印国際観光関連)
平成20年	4,261,000 (171,180)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ITF2008(香港)に出展(高山市単独) ◆ITF2008(台湾)に出展(高山市単独) ◆CITM2008(上海)に出展(高山市単独) ◆観光ホームページにタイ語を追加
平成21年	4,040,000 (148,000)	<p>「松本・高山・金沢観光ルート整備推進協議会」に白川郷が加わり、「松本・高山・金沢・白川郷誘客協議会」を設立</p> <p>VJY(ビジット ジャパン イヤー)地域に認定</p> <p>高速道路上限千円が始まる3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆BITE2009(北京)に出展(高山市単独) ◆ITE2009(香港)に出展(高山市単独) ◆ITF2009(台湾)に出展(高山市単独) ◆CITM2009(昆明)に出展(高山市単独) ◆外国語版ぶらり散策マップ作成(韓国語)
平成22年	3,812,000 (187,000)	<p>飛騨・美濃有料道路ゲート開放 4月</p> <p>中部縦貫自動車道 安房トンネル無料化実験 6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆外国語版ぶらり散策マップ作成(タイ語) ◆WTF2010(上海)に出展(クリア北京のブースに参加) ◆KOTFA2010(韓国)に参加(飛騨地域観光協議会) ◆ITE2010(香港)に出展(高山市単独)
平成23年	3,481,000 (95,000)	<p>東日本大震災発生 3月</p> <p>海外戦略室立ち上げ 4月</p> <p>式年大祭(桜山八幡宮) 5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆TITF2011(タイ)に出展(高山市単独) ◆KOTFA2011(韓国)に参加(飛騨地域観光協議会) ◆CITE2011(広州)に出展(高山市単独) ◆ITE2011(香港)に出展(高山市単独) ◆ITF2011(台湾)に出展(高山市単独)

有識者レポート

世界の中で磨かれる都市へ

愛知大学地域政策学部

教授 戸田 敏行

やや大仰なタイトルを付けた。明治以降一貫して増加してきた人口が減少に転じ、需要も供給も先の見えない縮小に入ろうとしている我が国。その中で周辺国に目を転じれば需要も供給も拡大傾向にある。とすれば、世界を地域の中に取り込み、また世界の視点で地域を見つめなおすことが、極めて重要と言えるだろう。振り返って豊橋は、拡大傾向にある中国人観光客の日本のゴールデンルートとなっている。しかし、ホテル滞在のみ。この観光客を豊橋観光につなげ、やがては豊橋を目的とする中国人観光を作り上げようという、かなり野心的な戦略づくりが、本委員会のテーマであった。各専門分野の委員、また事務局の豊橋市、地方自治研究機構のご努力によって、ユニークな成果となったと感じている。以下に、本調査の評価点と課題をあげ、総括コメントとしたい。

まず評価点である。第 1 に、自治体が対象国を中国という一国に絞った観光戦略を持ったことである。自治体の特性として、戦略が全般的・総花的になりやすい。戦略を集約化させてこそ、成果に近づくとと言えるだろう。第 2 には、この様に絞り込まれた戦略から、地域資源の洗い出しが行われたことである。当初から着目された手筒花火の他、刺子、筆づくりという伝統産業から、最近ブームとなっているカレーうどんに至るまでである。なるほど、その様に評価されるのかという発見があった。第 3 は、情報のネットワークである。上記の資源評価は、愛知大学をはじめとする留学生によっている。彼らは、地域が持つ重要な情報ソースであり、インターネットなどを通して観光情報発信者となることが期待される。また、中国側の観光関連機関に対して調査内容を発信してきたことも戦略実現への情報ネットワーク化と言えるだろう。

次に課題をあげておきたい。第 1 に、自治体として中国観光実施の旗を明確にすることであろう。調査と実施の間には、少なからず溝が存在する。実施するという前提でなければ詰められない項目が残されている。また、自治体戦略である以上、観光のみならず、産業面、教育面、医療面などの総合戦略として地域観光の厚みを作ることができるだろう。第 2 には、産官学民の連携を強めることである。今回、留学生の参加があったが、継続的な情報の発信者となるには、個人ではなく大学組織との連携などが必要となる。また市民参加は、観光ボランティアなどに広がり期待できる。さらに、企業との連携が不可欠である。今回の実験でも、多くの企業に協力を得た。しかし、日常的な観光資源とするには、それなりの対応が必要となる。そのためには、どの程度の観光客数を想定してゆくの、量の詰めが必要となる。それによって、企業の参加可能性は変化するだろう。第 3 は、委員会の中で最も指摘が多かった資源の広域化である。豊橋に限定することは観光の幅を小さくする。東三河地域あるいは浜松を含めた浜名湖圏に、観光範囲を拡大することが次の最大の課題である。

いくつかの評価点と課題を記述したが、これらを通して世界の中で磨かれる都市であると、豊橋が自覚することである。戦略は方法論から始まるが、結局は都市経営者や住民の意識変革に至ることが最も重要なことだと言える。

産学官連携の重要性について －豊橋観光コンベンション協会のインバウンド取り組みについて－

豊橋観光コンベンション協会
常務理事 田中 等

豊橋観光コンベンション協会は、愛知県東三河広域観光協議会事務局（幹事長）、三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会（代表世話役人）等を通して官民一体となって連携事業を進めている。

国内観光客の誘致、誘客については、旅行エージェント、旅行雑誌社、マスコミ関係社を毎年2泊3日で招聘し、豊橋をはじめ東三河地域の観光資源を味わってもらった上で旅行造成の依頼を行ってきた。招聘による視察が一巡した感があるため、今後の招聘時期及びコース設定にあたっては、新たなDESTネーションの考え方として満遍なく地域を巡るのでなく、話題性等を考えて、地域特化したコースを検討し、テーマ性を持った誘致活動が必要であると考えている。

豊橋の立ち位置としては、東三河の玄関であり出口である特性を生かして最終的に当地域を訪れて貰う事で、地域活性を図って行きたい。

インバウンドについては、三遠南信伊勢志摩連携事業を通して広域的に推進して行きたい。事業形態については、現地（海外）への旅行社訪問から、韓国、台湾の旅行社招聘等と海外情勢の変化に伴い内容を変えて行く。こしばらくは、アジア最大のマーケットである中国人をターゲットに誘致、誘客に努めて行きたい。今年度は、首都圏でインバウンドの取り扱いをしている旅行エージェントにむけて東京（豊川稲荷東京別院）地域観光説明会・商談会の開催と旅行社訪問を4班に分けて実施した。結果30社以上の旅行会社と面談ができ概ね好評であった。説明会・商談会には行政・観光協会の会員のほか宿泊施設・食事箇所・観光施設、等も加わり、インバウンドについても官民が一体となった新たな取り組みができた。

最後に今回の調査事業が、ただ調査ただけで終わらせないためにどうすべきか、それにとまなう「人・物・金」をどうするか、また地域発信（現地を知って貰うためにどうするか）をするにあたり、どこと連携してどうするか等を明らかにし、きちんと順序だてて進めて行くことが重要であり、さらなる産学官の連携が必要だと考えている。豊橋観光コンベンション協会として、今回の調査をもとにインバウンドの特性を掴み、連携の輪を広げて行きたい。

豊橋市の観光資源活性化

愛知大学地域政策学部
教授 荒川 清秀

豊橋に住んで早 35 年になる。東京へも大阪へも行きやすく、住むにはとてもよいところだが、さて観光客スポットは、観光客を引きつけるものとはなると考えてしまう。とはいえ、以下、いくつか気のついた点をあげてみたい。

■ 田原、蒲郡、豊川も含めて考える

広域的な観点で考えると、田原や蒲郡、豊川なども含める必要がある。田原のサンテパルクで提供されている野菜中心の料理は中国人にも好評である。蒲郡のラグーナは豊橋からでも 30 分の距離である。ここに一大アウトレットのような商業センターをつくれぬものか。また、ヤマダ電機などは、日航ホテルから近いから、夜でも専用バスをどちらかが用意すると、中国人観光客は、けっこうお金を落とすのではないかな。

■ ことばの問題

ことばの問題では留学生以外にも日本人のボランティア通訳の活用を考えてほしい。愛知大学の現代中国学部はもちろん、地域政策学部の学生も将来的には活用が可能だ。また、愛知大学には社会人の中国語教育を担う孔子学院があり、現在名古屋の車道と豊橋で 800 人が在籍し中国語を学んでいる。受講生の中には、中国へ留学する人もいて、レベルの高い人もそれなりにいる。中国人留学生だけに目をやるのではなく、日本人で勉強している人も積極的に活用してほしい。中国人でも、日本語がある程度のレベルに達しないと通訳をしてもらおうと思っても、実際あまり役に立たない。

■ 地域政策学部には地域活動に意欲を燃やす学生がたくさんいる

愛知大学地域政策学部の中には、地域活動に取り組む 4 つのグループがあり、最近その報告会があった。その中には「ええじゃないか豊橋キャラバン」などいくつかのグループがあり、学生の中で豊橋をよくしていこうという機運ができています。彼らにも参加してもらい、若い人の意見を取り入れていってほしい。わたしは、先の報告会で彼らの発表を聞いてとても感動し、頼もしく思った。学生の発表の内容は今回の調査と似ている部分もあり、街おこし活動以外に、外国人との交流、福島から避難してきた人たちとの交流も行っている。

■ 食べ物

・食べ物では、豊橋カレーうどんを宣伝するとよい。わたしは、もともとカレーうどんにご飯をいれて食べていたから全然抵抗がない。何軒か食べ歩いたが、各店はいろいろメニューに工夫をこらしていて楽しい。今より詳しいパンフレットを用意してもいいのではないかな。ただし、学生の中では B 級グルメとしては、値段が高く、量が多いという意見がある。500 円位の値段にならないと B 級グルメとは言い難いようだ。また、豊橋のうどん・そばは立派な文化で、概してレベルが高い。味は関東風の濃いスープのものもあるが、関西風の味が主流のような気がする。エビ天、野菜天ぷら入りなどあって、高級感もある。また、うなぎも美味しい店がたくさんある。これは中国人も好きだ。なめし田楽は、ヘルシー志向の客には好まれるだろう。

今後のインバウンド促進に向けた展望について

株式会社ツーリズム・マーケティング研究所
主席研究員 篠崎 宏

東日本大震災後、年間 622 万人まで減少した訪日外国人観光客も春節とともに回復傾向を強め、2012 年 1 月は前年比 4.8%減の 68.5 万人となっている。その中でも中国人観光客は前年比 39.6%増、9.9 万人にまで達している。

日本の観光は、諸外国が輸出産業と同様に観光産業を外貨獲得の重要産業と位置付けてきたのに対して、国民へのサービス産業として内需発展型の成長を遂げてきた。2002 年に「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2002」が閣議決定され、2003 年には国土交通省により外国人旅行者訪日促進戦略、外国人旅行者受入れ戦略、観光産業高度化戦略、推進戦略から構成される「グローバル観光戦略」が策定され、江戸時代の参勤交代と同様に人の動きを促進する政策決定がなされた。同時に国を挙げての本格的なプロモーションが始まり、韓国、台湾、米国、中国、香港を促進重点国・地域としてビジット・ジャパン・キャンペーンがスタート、各自治体が競争するように外国人観光客誘致を行っている。この間、豊橋市も参勤交代や伊勢神宮参拝と同様に、ゴールデンルートの宿場町として 5 万人の外国人観光客が宿泊する都市へと変貌している。

北海道庁が公表した 2010 年度の来道中国人観光客は 13.5 万人で、そのうち 11 万人が札幌市に宿泊をしている。人口 190 万人を有し日本を代表する観光都市といわれる札幌市と比較をしても、豊橋市の外国人観光客がいかに多いかがわかる。これまでは、大阪、京都と富士山、箱根の中間地点にある大垣、名古屋、豊橋、浜松はゴールデンルートを旅行するうえで、時間的制約から観光はしなくても必ず宿泊しなければならない都市として選ばれてきた。ではこれからも選ばれ続けるかという点と決して楽観できる状況ではない。今後の訪日中国人観光客マーケットに影響を与える可能性がある要因を以下に整理する。

●沖縄経由での日本入国にマルチビザ発給をスタートしたところ、それまでは団体 80%、個人 20%であった大手旅行会社のビザ申請が、団体 40%、個人 60%と比率の逆転が生まれている。

●2014 年の北陸新幹線金沢延伸へ向けて、北陸エリアの誘致活動が活発化しており、広域では古都・金沢、世界遺産・白川郷五箇山、高山市を有するエリアの競争力が増すと考えられる。

●中国の旅行会社がゴールデンルートに代わる新たなルート設計を始めており、中国人観光客に人気の北海道に続いて、ルート外の地域、特に沖縄への関心が高まっている。

これらの要因が引き起こすさらなる競争に生き残るためには、単なる宿泊都市に甘んじるのではなく、豊橋でしか見ることが出来ない地域資源を発掘、売り込むことである。手筒花火、刺子など豊橋市には日本の伝統といえる資源が埋没したままになっている。訪日中国人観光客が点から点への移動から、面的移動へと行動スタイルを変えつつある今こそ、次なる一手を打つタイミングだと考えている。

広域連携によるインバウンド誘致に向けて

豊橋市産業部商業観光課

観光客誘致の中でも特にインバウンドについては、一自治体が単独で取り組んでも、その地域の認知を高め、商品化につなげることは難しいといわれている。豊橋市においても本市単独では観光面の競争力は低く、広域連携による取り組みが鍵を握ると考えている。

このため、本市は三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会及び東海地区外国人観光客誘致促進協議会等の広域的な観光協議会の一員として、インバウンド誘致に取り組んできた。

今回の調査では、今後、より積極的に広域的な連携をしていくにあたり、本市が売り出していくべき地域資源が何であるのか、外国人観光客の中でも本市への宿泊者数が最も多い中国人観光客に受け入れられる資源が何であるのか、モニター調査により、その傾向を把握することができた。また、ワーキング部会を通して、本市の近郊にある地域資源のリストアップを行ない、歴史、文化、景観、伝統芸能、食と多岐にわたり豊富な資源があることも確認できた。

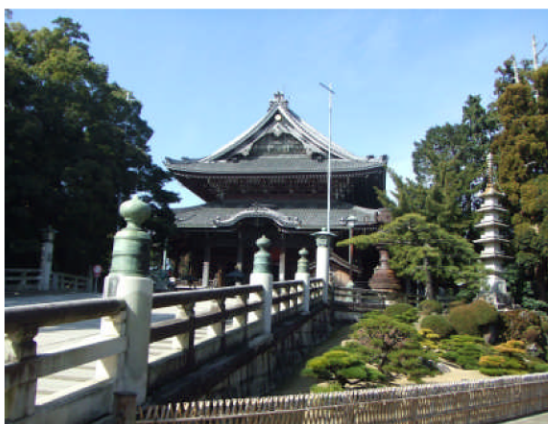
この調査の成果をもとに、本市では、ゴールデンルートを利用する中国人観光客をターゲットとした広域のルート案を作成した。東京・富士箱根と京都・大阪をルートから外すことなく、豊橋市及び近郊の地域資源を体験できる内容としたものであり、具体的には、日本三大稲荷のひとつ「豊川稲荷」を当地域の代表する地域資源として行程に入れ、豊橋の地域資源を体験したのち、渥美半島の伊良湖岬から新しく「しおさい海道」と愛称が付けられた伊勢湾フェリーを利用して伊勢志摩地域と結び、知名度の高い観光地と連携することが可能となり、より集客力の高いルートが提案できると期待している。さらに、期間限定となるが豊橋の「手筒花火」、田原の「菜の花まつり」を行程に組み込むことにより、ルート全体の魅力がさらに増すものと考えられる。

このルートを「新ゴールデンルート」として広域連携によるインバウンド誘致の柱となるよう、広域的な観光協議会に提唱していきたい。

■豊橋市が提唱する広域連携ルート

ゴールデンルート + 豊橋と近郊の魅力 にふれる + 伊勢志摩地域	<p>1日目： 他地域 → 16：00 日本三大稲荷のひとつ「豊川稲荷」 → 18：00 豊橋市内「夕食、ホテルに宿泊」 (季節により「手筒花火観賞」)</p> <p>2日目： 9：00 ホテル → 9：30 豊橋の地域資源を体験「路面電車」、 「山佐染工所(刺子)」、「二川宿本陣資料館」等→ 12：30「伊良湖岬(散策・昼食)」→ しおさい海道 (伊勢湾フェリー) → 鳥羽・伊勢志摩地域 → 他地域</p> <p>※ 豊橋市滞在前後の予定は、東京・大阪間を移動する旅程を想定している。 ※ 冬季には、渥美半島の菜の花まつり見学を組み込むことも可能である。</p>
--------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

広域連携ルートの魅力



豊川稲荷



二川宿本陣資料館



手筒花火



伊良湖菜の花ガーデン



伊勢湾フェリー



路面電車

委員会・部会・事務局名簿

委員会・事務局名簿

「観光産業創出のための外国人誘致を主体とした プロモーションに関する調査研究」

委員長	戸田 敏行	愛知大学地域政策学部教授
委員	水上 俊貴	社団法人愛知県観光協会海外誘客宣伝部部長
	田中 等	豊橋観光コンベンション協会常務理事
	角谷 歩	豊橋商工会議所観光サービス業部会部会長
	東田 昭夫	豊橋鉄道株式会社営業企画部長
	鈴木真理子	豊橋女性団体連絡会副会長
	堀 洋文	豊橋市産業部商業観光課課長
	飯田 昌三	財団法人 地方自治研究機構 調査研究部長兼総務部長
	事務局	長幡 浩司
酒井 利久		豊橋市産業部商業観光課課長補佐
河合 秀敏		豊橋市産業部商業観光課観光グループ主査
中村 紀彦		豊橋市産業部商業観光課観光グループ
岸田 拓士		財団法人地方自治研究機構主任研究員
佐藤 大輔		財団法人地方自治研究機構研究員

基礎調査機関

篠崎 宏	株式会社ツーリズム・マーケティング研究所主席研究員
浪川桂一郎	株式会社ツーリズム・マーケティング研究所研究員
古川 崇	株式会社ツーリズム・マーケティング研究所研究員

(順不同)

部会・事務局名簿

「観光産業創出のための外国人誘致を主体とした プロモーションに関する調査研究」

部会員	戸田 昌裕	豊橋観光コンベンション協会事業推進課長
	鴨下 真也	豊橋商工会議所地域振興課長
	鎌田 俊一	豊鉄観光サービス株式会社企画販売センター課長
	八塚 哲子	とよはし女性フォーラム副会長

アドバイザー

	水上 俊貴	社団法人愛知県観光協会海外誘客宣伝部部長
--	-------	----------------------

事務局

	長幡 浩司	豊橋市産業部商業観光課主幹
	酒井 利久	豊橋市産業部商業観光課課長補佐
	河合 秀敏	豊橋市産業部商業観光課観光グループ主査
	中村 紀彦	豊橋市産業部商業観光課観光グループ
	岸田 拓士	財団法人地方自治研究機構主任研究員
	佐藤 大輔	財団法人地方自治研究機構研究員

基礎調査機関

	篠崎 宏	株式会社ツーリズム・マーケティング研究所主席研究員
	浪川桂一郎	株式会社ツーリズム・マーケティング研究所研究員
	古川 崇	株式会社ツーリズム・マーケティング研究所研究員

(順不同)

観光産業創出のためのプロモーション
に関する調査研究

－平成24年3月発行－

豊橋市

〒440-8501 愛知県豊橋市今橋町1番地
電話 0532-51-2111（代表）

財団法人 地方自治研究機構

〒104-0061 東京都中央区銀座7-14-16 太陽銀座ビル2階
電話 03（5148）0661（代表）

印刷 株式会社ワコープラネット

